

日本の古都はどうして空襲を免れたのか

—ウオーナー博士の貢献とGHQの宣撫工作—

Why ancient capitals, Kyoto, Nara and Kamakura, were avoided US air force bombing?

- Dr. Warner's contribution and GHQ intervention -

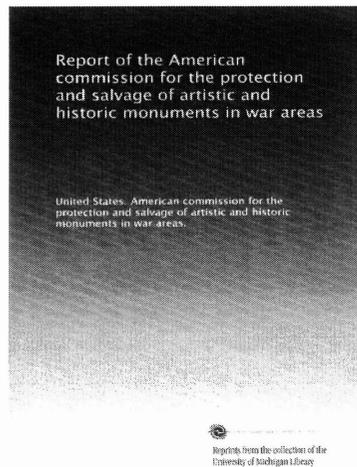
西嶋 洋一*

要約 ウオーナー恩人説「京都・奈良が爆撃を免れたのはアメリカによる文化財保護政策のお蔭であり、その恩人はウオーナー博士である」というウオーナー恩人説が昭和20年11月に朝日新聞に報道された。それに日本斯界の専門家矢代幸雄がお墨付きを与えたため日本社会に定着しかけていた。ところがその実態は第2次世界大戦終結直後のGHQ（連合軍総司令部）の占領政策の宣撫工作の一つであった。終戦後58年を経て吉田守男が、恩人説の証拠に示されたウオーナーリストは、米国の第2次大戦の戦場での歴史的文化財の略奪の保護・返却の実施方針のもとでロバーツ委員会報告の日本版としても作成したものであり、アメリカによる日本の古都文化財保護と称する根拠がなく、ウオーナー恩人説は伝説に過ぎないと反論した。宣撫工作は、「鬼畜米英」と扇動されていた日本国民を、「日本の古都を守って呉れた米国に感謝」という方向に思想転換して切り替える手段としてウオーナーリストを利用したものであった。吉田守男の反論によって「歴史は勝利者の手で都合よく作られる」という後世からの評価を免れることになった。矢代幸雄は存命中に自らの誤りを修正する機会を逸した。

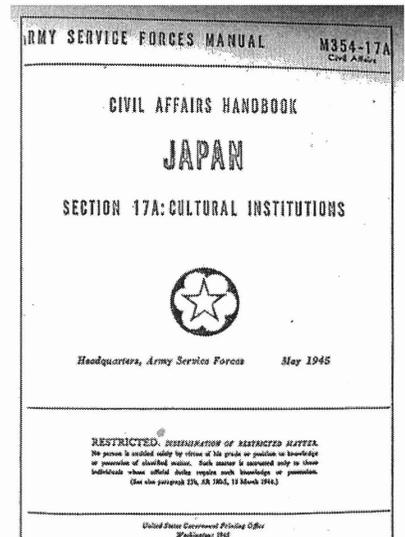
キーワード 1. 古都奈良、京都、鎌倉の空爆回避
2. ウオーナーリスト



図表1 昭和20年11月11日 朝日新聞



図表2 ロバーツ委員会報告書 英文原文書



通称《ウオーナー・リスト》の表紙（国立国会図書館所蔵）

図表3 ウオーナーリスト原文 国会図書館所蔵

* 愛知学院大学総合政策学部元教授

昭和20年11月11日朝日新聞報道と成果

- 1) 朝日新聞というトップジャーナリズムが、当時4面しかない新聞の2面に7段抜きで(写真入り掲載)ウオーナー博士を名指しで「古都を守ったウオーナー博士に敬意を捧げる」と発表した。
- 2) 日本を代表する美術史家・美術評論家矢代幸雄の「敬意を捧げる」発言であり、日本国民に米国への感謝、ウオーナーへの感謝の念が盛り上がった。
- 3) この処置は生殺与奪の権を握る米国(GHQ/CIE)による日本国民に対する宣撫工作であった。ウオーナーリストが本来の目的と異なる方向にすり替えられて宣撫工作に有効に活用された。
- 4) 敗戦直後の昭和20年の新聞報道から58年経過して2003年吉田守男論文がウオーナー恩人説を宣撫工作と喝破した。

頻出用語

ロバーツ委員会・ロバーツ委員会報告書

ロバーツとは米国最高裁長官名。ロバーツ委員会は大統領の指示によって発足した第2次世界大戦の「戦争地域の美術的歴史的遺跡の保護」と「枢軸国(ナチス・日本軍)によって略奪された美術品・歴史的文書を正当な所有者に返還する機構の確立」であった。ロバーツ委員会指令により欧州・極東あわせて40の戦場地域に分けて美術的歴史的遺跡のリストが作成された。

ラグントン・ウオーナー博士(1881-1955)

日本美術研究家でありハーバード大学美術館東洋部長であり、ロバーツ委員会極東担当の責任者としてウオーナーリスト作成作業に関わった。ウオーナー自身は恩人扱いされることを嫌がっていた。リストを作成はしたが戦時最高責任者であるマッカーサー元帥が戦場指揮官としてそのリストをどう様に運用するかを決めたのだと。ウオーナーは日本の古美術研究の開祖である岡倉天心の弟子であったが、敦煌壁画の剥

ぎ取り問題など個人的資質の問題のために破門された。

ウオーナー古都の恩人伝説・米国(GHQ)の宣撫工作

「古都に空襲がなかったのは、その文化財を保護するためにアメリカ軍が爆撃を控えていたからであり、そのことを進言した「古都の恩人はウオーナー博士である」。GHQ/CIEは鬼畜米英の反米思想に凝り固まった日本国民の思想を改造して親米に切り替える手段としてウオーナーリストを利用した。

ウオーナーリスト

ロバーツ委員会で極東担当・日本担当の責任者として指名されたウオーナー博士が日本の美術的歴史的遺跡の全貌を捉えられる様作成したりリストと地図。

矢代幸雄(1890-1975)日本の美術史家、美術評論家。欧州留学し帰国後、東京美術学校教授、美術研究所長に就任。文化財保護委員会委員。米ハーバード大学、スタンフォード大学で教鞭。日本の西洋美術史研究の祖。芸術院会員、文化功労者。ウオーナー恩人説の普及者とも云われている。

吉田守男(1946-)京大部文学部卒。樟蔭女子短大教授、国文学。吉田守男著「日本の古都はなぜ空襲を免れたか」朝日新聞社刊、2003年8月、他多数。

吉田守男著「日本の古都はなぜ空襲を免れたか」の要約

「ウオーナー博士は古都を救った恩人か」と「ウオーナー伝説を創作したのは誰か」の2章よりなり、米国政府原資料と、関連文書類を検証して米国(GHQ/CIE)の宣撫工作の内幕に迫っている。

筆者の立場

吉田守男が2000年「日本の古都はなぜ空襲を免れたか」を発表してから10年以上経過しており各地で既成事実化された恩人説に対する見直しが行

われ始められている。筆者の狙いとするところは「ウォーナー伝説が創造されたのは何故か」を下記文献を主として可能な範囲で自ら検証することである。実際は伝説が崩れ「歴史は勝者の都合のよいように作られる」ということにはならなかった。筆者は古都京都で学生時代を過ごし、古都鎌倉に至近距離の横浜市金沢区に在住し歴史的的文化財に興味を持ち続けている。また原典で理解したロバーツ委員会文書類による実務処理方式は、アメリカで開発された優れたプロジェクトマネジメントシステムを援用している。多方面に亘り、転換する課題の迅速な処理に適している経営管理手法であり、ロバーツ委員会という終戦処理機関に適用され成果を挙げた。プロジェクトマネジメントは筆者が在職したプラントエンジニアリング企業で実務経験済であったため理解が早かった。本課題への興味を一段と深めるものとなった。

注：プロジェクトとは

「：開始日および終了日を持ち、調整され、管理された一連の活動よりなり、時間、コスト及び資源の制約を含む特定の要求事項に適合する目標を達成するために実施される独自のプロセス」(品質マネジメントシステム「プロジェクトにおける品質マネジメントの指針」日本規格協会 編集委員長 中村館太郎 エンジニアリング振興協会監修 2004年11月19日)

参考文献

- 1 ロバーツ委員会報告書「Report of The American Commission for the Protection and Salvage of Aesthetic and Historic Monuments in War Areas, Washington 1946」(Reprint from the collection of the University of Michigan Library) Amazon Japan
- 2 ウォーナーリスト (陸軍動員部隊報告マニュアル (M354 - 17A), 民事ハンドブック日本17A・文化施設)「Army Service Force Manual M354 - 17A, Civil Affairs Handbook JAPAN Section 17A: Cultural Institution」
- 3 吉田守男「日本の古都はなぜ空襲を免れたか」(朝日新聞社刊, 2003年8月)

2 ロバーツ委員会・報告書について

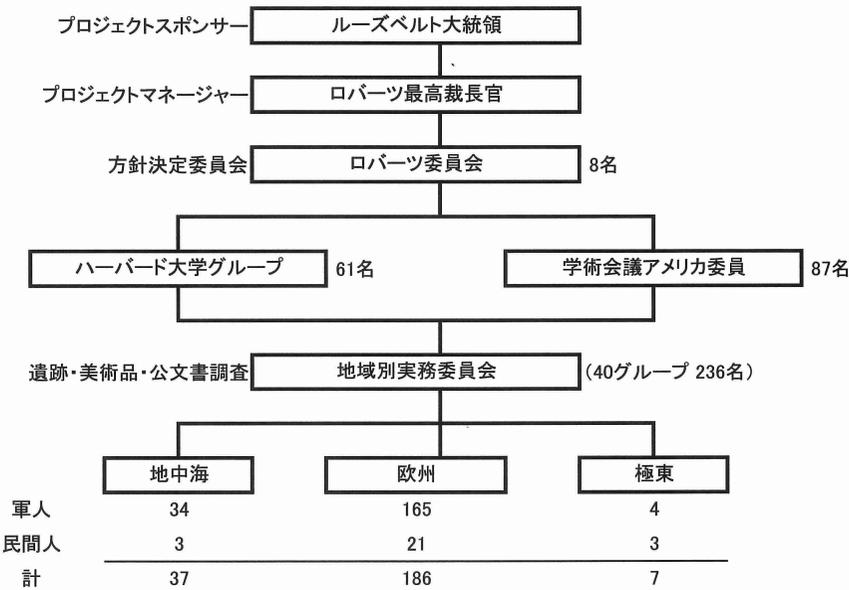
2-1 ロバーツ委員会とは

ロバーツ委員会と設立の目的と役割

目的は「戦争地域の歴史的文化的文化財の保護」と「枢軸国によって略奪された美術品・歴史的の文書を正当な所有者に返還する機構の確立」であり、役割は戦時中は文化的価値のあるものが保護されるようにすることと、略奪された資産のリスト作成であり、休戦時は公的資産の返却である。不可の場合物品で弁償することであり、弁償は枢軸国私的財産でなされることを定めている。

図表2-4 米国ロバーツ委員会とは 第2次大戦・戦争地域の美術的歴史的遺跡の保護と返却

目的	「戦争地域の美術的歴史的遺跡の保護」と「枢軸国によって略奪された美術品・歴史的の文書を正当な所有者に返還する機構の確立」			
国別作成物 (リスト)	極東	地中海	欧州	計
	4	36		40
作成期間	リスト作成作業開始1943年 終了報告書1946年6月 委員会解散1946年8月			
従事者数	計230名 地中海地域 37名 欧州戦線 186名 極東 7名			
指揮系統	ルーズベルト大統領→ロバーツ最高裁判所長官→委員会目的作業の遂行→ ⇒戦争遂行責任者(欧州アイゼンハワー, 極東マッカーサー)			
役割	戦時中 休戦時	文化的価値のあるものが保護されるようにすること略奪された資産のリスト作成 公的資産の返却 不可の場合物品で弁償 弁償は枢軸国私的財産でなされること		



図表2-5 米国ロバーツ委員会組織構成

図表2-6 ロバーツ委員会報告書目次

	頁数
1章 委員会と設立の目的	4
2章 合衆国および関係各国の活動概要	25
3章 委員会のアーカイブスの準備	14
4章 文化財、美術品等の各地域の活動	
A 地中海地域	46
初期計画, シシリー イタリア	
B 欧州フランス Benelux	62
C 極東(日本 中国 韓国 ベトナム)	3
D 結論	1
人名録	4
Bibliography	4
記録写真(欧州)	60
索引	9
計	238

人名 極東担当 リーダー・ウォーナー
 軍関係 4名 民間人 3名
 軍関係・将校 ジョージ・スタウト
 ウォルター・ポファム
 ローレンス・シックマン
 リチャード・デイビス
 民間人 ラングドン・ウォーナー
 ジェームス・キー
 タカヨシ・ヨダ

2-2 ロバーツ委員会の組織と役割

アメリカ大統領のもとでロバーツ最高裁長官をプロジェクトマネージャーとして方向付けを行う全体委員会ロバーツ最高裁長官 美術館長(国立美術館・メトロポリタン美術館・フォッグ美術館) アメリカ考古学協会会長という斯界の最高の専門家を任命している。

★方向付け委員会 グループハーバード大学グループ61, 学術会議アメリカ委員会87名

★地域別実務委員会は230名の専門家による遺跡・美術品・公文書調査活動を担当し, 地中海・欧州戦線・極東 併せて40の地域・国のリストを作成した。

★ロバーツ委員会報告とウォーナーリスト

ウォーナーリストはロバーツ委員会の決定に従って40作られた地域の文化財リストの日本版であり, 日本の歴史的な文化財保護を目指して作成されたものという記載は見当たらない。

2-3 ロバーツ報告書の構成

米国は戦場における歴史的な文化財の略奪品の把握, 保護, 返却に付いて, 一貫した方針と確実な手順に従って処理し, 報告を取り纏めることを米

国の、斯界の最高水準の人材を取り込んで大統領の指揮のもとにロバーツ最高裁長官で取り進めることを定めた方針書・手順書であり、一部報告事項を含んでいる。実務的な表現をすれば略奪品の把握、保護、返却というプロジェクト課題（期限・経営資源・方法論の決められた遂行課題）のマニュアル・手順書であり、プロジェクト遂行報告書である。

ナチスドイツが略奪した歴史的文化財を仕分けして返却することからはじまった。略奪された現物がなければ同等水準のドイツの歴史的文化財で弁償するという実務的な作業が進んでいった様子である。返却原則（restitution principle）が明確に定義されて実務的に処理されていたことが伺える。極東地域については日本軍による略奪の対象となったものが少なかった様で記載が限られている。日本の奈良、京都は安全であったという記載がある。

全体として米国社会の戦後処理の実務処理水準の高さを伺わせる内容である。報告書は未完成であるとの表現が随所に現れているが、委員会報告発行2か月の後の1946年8月にプロジェクト終結宣言がなされた。プロジェクト進捗推移は下記の通りで、発足から解散まで丸3年間。

委員会設立の経緯（最高裁ストーン長官委員会設置の提案・大統領宛（1942.12）⇒委員会設置（1943.8.20）⇒委員会範囲拡大（極東地区を加える1944.4海軍省要求）⇒ロバーツ委員会報告書完成（1946, 6）⇒ロバーツ委員会解散（1946, 8）

3 ウォーナーリストとは何か

ロバーツ委員会の組織におけるリスト作成地域40（欧州36、極東4）の報告書の内の一つで、極東4地域の日本版の文化財リストと文化財所在地一覧である。日本に立地する1200余りの歴史的文化財の所在を示すリストであり、その重要度を4区分に★印で仕分けした示す地図付きのリストである。

図表2-7 ウォーナーリスト目次

1 序	6
2 日本の歴史的文化財概説	6
3 神社寺院建築用語	1
4 日本列島	4
5 関西広域（含比叡山、高野山）	3
6 京都	3
7 奈良	2
8 東京	3
9 参考書目	1
10 索引	1
	計 31

コンパクトな31ページのウォーナーリスト目次に示す（図表2-6）通りである。ウォーナーリストは駐在の将校に配布された。★印は文化財の等級分けである。★の多い程文化的価値の高いものである。

★★★21 ★★15の計36箇所は京都、奈良 東京 はじめ全国に分散している。京都、奈良に半分以上があり多く保存されており空爆を免れている。参考でに鎌倉は園覚寺舍利殿と銅大仏の記載があるが、★印なしであった

正式名称 ウォーナーリストの正式名称は「陸軍動員部隊報告マニュアルである。（M354 - 17A）、民事ハンドブック日本17A・文化施設」、「Army Service Force Manual M354 - 17A, Civil Affairs Handbook JAPAN Section 17A: Cultural Institution」である。

目的 ロバーツ委員会で定められた通り、日本が中国や韓国から略奪した歴史的文化財リストの作成と、返却リストと弁償用代替品リストの作成の為に使用される。リストの緒言では、東京、京都、仙台の図書館には中国・韓国からの略奪歴史的文化財が保存されている可能性があるので、注意してみなければならないと記載している。この点は矢代芸術新潮論文に触れられていない。矢代の芸術新潮論文では★★★は空爆を控える為の順位付けであると述べているが、

ロバーツ委員会の指向する方向には明らかに矛盾するし、奇異に感じられる。この点でも矢代幸雄に対する米国による宣撫工作は続けられていたと理解するしかない。

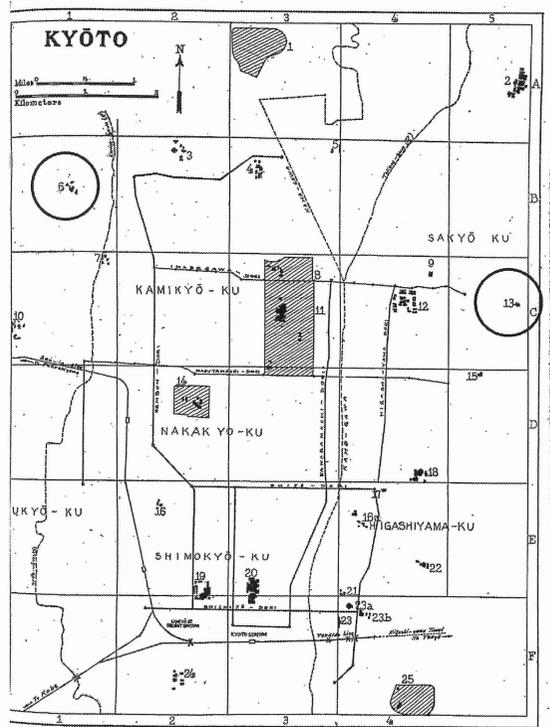
ウォーナーリストは極めて簡潔且つ見易く31ページで構成されていることを取り上げておきたい。なかでも地図の出来の良さは特筆に値する。東京・京都・奈良・近畿地区・日本全体の5枚の鳥瞰図は全貌把握可能であり、対応する歴史的文化財一覧との対比が可能である。ウォーナーの専門力量の高さが評価出来る。

ウォーナーリストの歴史的文化財の地域分布 (図表2-8)

ウォーナーリストの★★★印歴史的文化財の地域分布を奈良、京都、東京等の3地域分布の状況を示した。全国で★★★21箇所、★★15箇所の併せて36箇所であり、京都と奈良に過半数の20箇所(56%)があり、京都は11箇所である。(図表2-9 京都地図)

京都地図は東西に5つの区割り、南北にA-Fの6つの区割りで、網の目状にシンプルな30に区割りされ、文化財は地図の各ブロック中に番号で記入されている。例えばB1ブロックの6は金閣寺で重要度★★★となっている。銀閣寺は★★★5Cブロックの13。

60年も前に作成された出来の良い観光案内地図でもある。



図表2-9 ウォーナー京都地図

4 ウォーナーと岡倉天心

図表2-10 ラグンドン・ウォーナー博士胸像 (昭和45年2月建立・茨木大五浦美術研究所)

ウォーナーを語るには、明治初頭に代日本美術の発展に大きな功績を残した岡倉天心(1863-1913)の存在を落とす訳にはいかない。東京美術学校の創立、ボストン美術館中国・日本美術部長就任など国際的な視野に立って活動した。ウォー

図表2-8 ウォーナーリストの歴史的文化財の地域分布

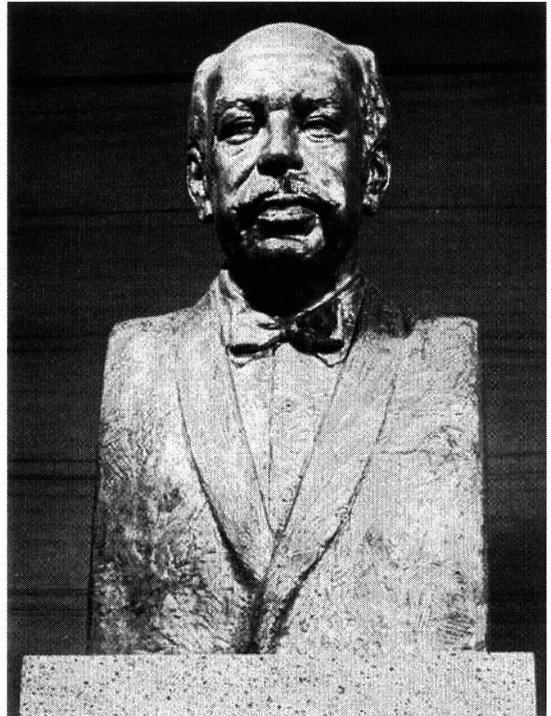
京 都	奈 良	東京他	
★★★ 園城寺, 平等院鳳凰堂 金閣寺, 三十三間堂, 5 銀閣寺	薬師寺東塔, 法隆寺, 中宮寺 正倉院, 東大寺大仏殿 薬師寺聖観音, 東大寺正倉院 奈良帝室博物館 8	日光東照宮, 伊勢神宮, 高野山 住友男爵古銅器, 帝室博物館 東洋学図書館, 帝国博物館 出雲大社 8	21
★★★ 延暦寺 西本願寺, 清水寺, 二条城 東本願寺, 桂離宮 6	法華寺 1	厳島, 早大仏教図書館, 東大赤門 団伊能菟集品, 根津嘉一郎収集品 帝国ホテルライト建築 京都帝室博物館 原山溪園 8	15
11	9	16	36

ナーは1907年（明治40年）来日し3年間五浦に滞在し天心の指導を受けている。天心は初期のウォーナーに期待してボストン美術館に推薦したが、やがて美術館で不協和音を起こすウォーナーに苛立ち、解雇の進言をしている。その後破門・絶縁宣言をしている。ウォーナーは1912年11月ボストン美術館を依願退職になっている。岡倉天心は「天狗になりたる結果なり」として絶縁宣言をしている。天心は晩年、思索と静養の場として太平洋に臨む人里離れた茨城県五浦（現在の北茨城市五浦）に居を構え、後進を指導し亡くなるまでこの五浦を本拠地として生活した。1970年（昭和45年2月21日）ウォーナー像が五浦に建立されている。中国に於けるウォーナー評価は、王重民氏は「大騙子、大盗賊」と極めて厳しい。彼の敦煌壁画剥奪と盗品の「菩薩像」はフォッグ美術館に展示されていることは、良く知られている。またウォーナー敦煌調査隊は入場・調査を地方政府より拒否され、目的を果たすことなく追い返されている。

- 1 ウォーナーは恩師岡倉天心に対して信頼に値えることなく、背信的行為をとったために天心により破門・絶縁されている
- 2 ウォーナーは敦煌石窟文化財の窃盗行為を行い、その盗品はボストン美術館に展示されている。
- 3 ロバーツ委員会で極東担当として任命されたウォーナーは中国では略奪極悪人扱いであるが、日本では古都保存の恩人という構図も崩れつつある。

5 矢代幸雄ウォーナー恩人説と吉田守男の恩人説否定論証

敗戦直後の昭和20年11月朝日新聞で「京都・奈良が爆撃を免れたのはアメリカのお蔭であり、その恩人はウォーナー博士である」と宣言している。それに加えて矢代幸雄は12年後の昭和32年（1957年）の芸術新潮11月号「ウォーナーリストを巡っ



図表2-10 ウォーナー博士銅像（五浦）

て「日本爆撃と文化財の救済」を寄稿している。ロバーツ委員会報告に触れ、ウォーナーリストの★★印が空爆除外対象であると明記している。矢代幸雄はその執筆に際して、米国の美術関係者に面談して恩人説を確認したと断言している。しかしながら精査すると、ロバーツ委員会報告の記載と矛盾しており、昭和20年の朝日新聞の記載事項と同じことの繰り返しでしかなかった。筆者も原典に戻ってその確認した。

吉田守男の矢代ウォーナー恩人説の検証と反論

矢代幸雄1945年（昭和20年）版で朝日新聞から58年を経過した2003年吉田守男の矢代ウォーナー恩人説の検証と反論「日本の古都はなぜ空襲を免れたか」（朝日新聞社刊、2003年8月）を発表し、それはウォーナー伝説であり、創られた話であると退け、真実は別にあると具体的な事実を以て示した。吉田守男はアメリカ合衆国が、日独伊枢軸国が行った歴史的な文化財の略奪行為に対して、その保護と返却を目指す米国の委員会（ロバーツ委

員会)を立ち上げ、その傘下に40区域ある)リスト作成地区の一つとしてウォーナー委員会・ウォーナーリストがあった。ウォーナー伝説ではロバーツ委員会報告とウォーナーリストの関連付けが間違っており、恩人説は根拠のない話であるとしている。欧州の対応と日本の対応はロバーツ委員会参加も基く共通のリストであると理解していない。吉田守男発表以来、ウォーナー伝説であることを認識する考え方が徐々に日本国内に広まっているようだ

6 米国 (GHQ) は恩人説の創作・演出を行った (吉田論文最終章)

GHQは占領政策実施に際し宣撫工作としてウォーナーを古都保存の恩人に仕立て上げたというのが事実の様である。吉田守男はGHQ(連合国総司令部)の役割の第1は、降伏した日本の宣撫工作であった。終戦時まで軍部によって「鬼畜米英」と扇動されて戦争に駆り立てられた日本国民を、あらゆる手段を講じて思想的改善を行って平和裡に親米国に切り替えることであった。敗戦直後の茫然自失している日本人にとって「古都京都・奈良・鎌倉を守って呉れた米国人ウォーナーに感謝」する感情が盛り上がるのを見込んでのことである。反米感情から親米ムードに切り替える恰好な材料として利用した。ヘンダーソン中佐はCIE(Civil Information and Education)民間情報局の芸術文化部門の宣撫工作の責任者であった。即ちヘンダーソンに加えてロバーツ委員会極東担当で指名されてスタウト、ウォルター・ポファム、ローレンス・シックマンと殆どがその担当に配置されている。

ウォーナー恩人説は、日本社会では即効薬としての宣撫工作の効果を挙げた。

ルーズベルト大統領の姪がウォーナー夫人であったことが、この伝説を尤もらしく脚色された材料の一つとなった。

筆者の所見

1 ウォーナーも、矢代幸雄も米国(GHQ/CIE)の宣撫工作に取り込まれた。矢代幸雄の終戦直後の1945年(昭和20年)11月の朝日新聞の「京都奈良無疵の裏 作戦、国境を越えて人類の寶を守る。陰に美術専門家が」、「古都を守ったウォーナー博士に敬意を捧げる」と発表した。これは米国(GHQ/CIE)の占領政策としての宣撫工作であった(吉田著作最終章)。米国としてはウォーナーリストの出来が良いので、ロバーツ委員会の目的である歴史的文化財の保全・返却の見通しは付いたので、米国の大戦後の世界戦略を推進することに舵を切った。即ち日本を親米国にするための誘導策で、即効の効果齎す恩人説を創設した。ウォーナーはロバーツ委員会の責任者・当事者であるから瞬時に背景を見抜けたが、矢代幸雄は最後までウォーナー恩人説のカラクリに気付くことが出来なかった。ウォーナーと自分は親友であると矢代幸雄は述べているが、その背景を知るに至らなかったのか?

2 ウォーナーは自分が恩人扱いされるのは筋違いであると繰り返した

ウォーナーは自分はリストを作っただけで、マッカーサーが爆撃するかしないかは決めたことだと云っている。故に自分が恩人扱いされることは違ふと繰り返し述べたという。それは「謙讓の美德」であると受け取られている向きもあるが、プロジェクト組織論では明快に説明出来る。プロジェクトとは目的と期限と予算遂行のための臨時編成の組織と定義される。戦争という国家プロジェクト組織ではマッカーサーがプロジェクトマネージャーとして単一責任で戦争遂行の為の作戦、戦略情報のもとに決定を下し、全ての組織に指示を行った。ウォーナーは歴史的文化財保護という機能組織のリーダーの職責として上出来のリストを作成したものを、マッカーサーが古都は爆撃の対象から外すと決断したと推察出来る。

3 歴史は勝者に都合良く記される。

吾妻鏡は鎌倉時代を歴史書であり、テキストとして引用されているが、鎌倉幕府の執権の立場にあった北条氏に都合よく書かれている。北条氏が三浦氏、比企氏等との権力闘争に勝ち残って政権の中枢に止まったが、吾妻鏡は為政者に都合よく書かれている。吉田守男がレポートを出さなければ、その俚諺通り進んだかもしれない。年代を追ってみれば昭和20年（1945年）矢代は56歳 芸術新潮に投稿したのは昭和32年（1957年）68歳。ウオーナーはその2年前に74歳で亡くなっている。昭和48年（1975年）矢代没85歳。彼ほどの社会的立場と名声を得、宣撫工作開始以降30年間の修正・是正の機会があったにも拘らず、矢代は修正・是正の機会を逸している。

参考文献

1 ロバーツ委員会報告「Report of The American Commission for the Protection and Salvage of Artistic and Historic Monuments in War Areas, Washington 1946」及び

- 2 ウオーナーリスト(陸軍動員部隊報告マニュアル(M354 - 17A), 民事ハンドブック日本17A・文化施設)「Army Service Force Manual M354 - 17A, Civil Affairs Handbook JAPAN Section 17A:Cultural Institution」
- 3 吉田守男「日本の古都はなぜ空襲を免れたか」(朝日新聞社刊, 2003年8月)
- 4 矢代幸雄「ウオーナーリストをめぐる - 日本爆撃と文化財救済」 芸術新潮昭和32年11月号
- 5 芸術新潮編集部「文化財は如何にして救われたか」芸術新潮11月号 芸術新潮昭和32年11月号
- 6 ウオーナー像 茨木大学五浦美術文化研究所報第1号 - ウオーナー像完成記念特集 - 1971茨木大学五浦美術文化研究所
- 7 ラグンドン・ウオーナー博士年譜 茨木大学五浦美術文化研究所報第1号 - ウオーナー像完成記念特集 - 1971茨木大学五浦美術文化研究所
- 8 茂木雅博著「岡倉天心とウオーナー」 博古研究 Vol.11, No1, 2001年4月30日
- 9 孫曉崗・茂木雅博著「日本における Langdon Warner の評価」 博古研究 Vol.10, No1, 2000年4月30日
- 10 連合軍総司令部編/共同通信社訳「日本占領の使命と成果」1950年
- 11 西嶋洋一著「御谷騒動・古都鎌倉の風致保存と世界遺産登録」愛知学院大学総合政策研究第15巻2号, 2013年3月31日

Abstract: In 1945, almost all the cities in Japan were destroyed by US air force bombing. except ancient capital, Kyoto, Nara and Kamakura. In Nov, 1945 just after the World War II, Asahi-Shimbun, reported, the reason why Kyoto and Nara were not bombed owe to Dr. Lagndon Warners efforts for non-bombing. Dr. Warner made up excellent [Warnar List and Maps] of artistic and historic monuments in Japn upon request of US President Roosevelt. Dr.Yukiro Yashiro, the authoritative person of history of artistic and historic monuments in Japan endowed that " I appreciate and respect Dr.Warner for his contribution " for avoioding bombing to Kyoto and Nara, the center of artistic and historic monuments in Japan, where half of important monuments are located." Japanese people appreciated and respected Dr.Warner for his contribution. Dr.Warner was conferred "Orders of the Sacred Treasure" by Japanese Government and his busts and monuments were constructed In Kyoto, Nara and Kamakura. and other places.

In 2000, 55 years after 1945, Professor Morio Yoshida disclosed Asahi-Shimbun /Yashiro cinario based on Warner List was GHQ Cinario made and directed by CIE (Civil Information and Educational Section), aiming "Change mind and attitude of Japanese People from Anti-America to Pro-America "

GHQ:General Headquarters, the Supreme Commander for the Allied Powers (GHQ/SCAP)

keywords: 1 Avoidance of Kyoto, Nara and Kamakura. US air force bombing

2 Dr. Warner Lists and Maps

